



地域医療連携推進法人

Just2Ys League

2024-2025年 年末年始連携往診システム実績報告

Just2Ys League

01

24時間、365日の訪問診療体制の
持続的なプラットフォームの整備

02

災害時（新興感染症発生時を含む）の緊急対応と資材提供

03

患者搬送システムの体制整備

04

医療提供の質の向上のための共同研修

05

バックオフィス機能の提供

06

診療所と病院連携と教育システムの整備

07

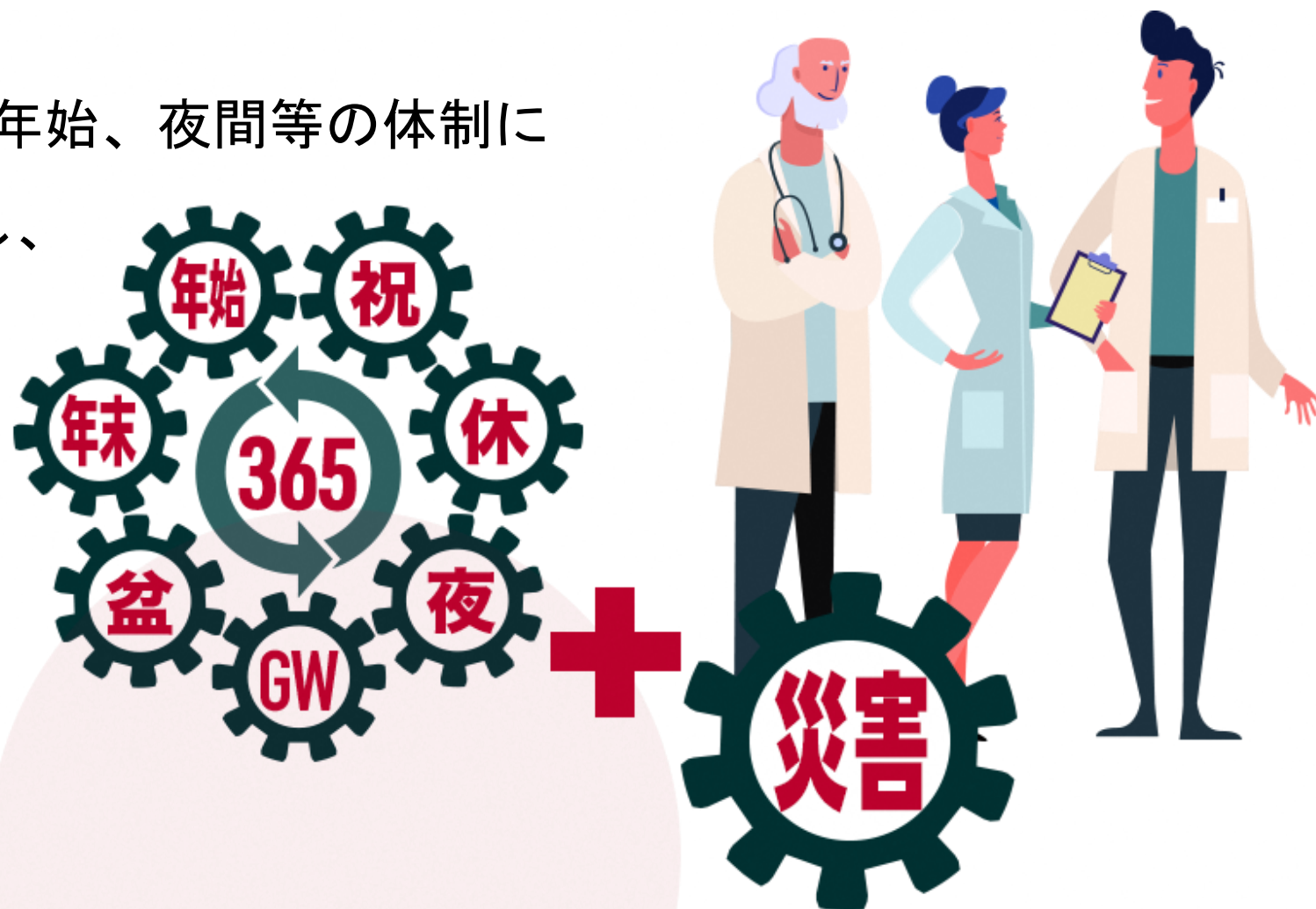
研究機関との学術的観点での共同研究

休日、祝日、GW、お盆、年末年始、夜間等の体制に
災害時の緊急往診体制を追加し、

連携責任と実働を伴った、

「在宅医療に必要な
連携を担う拠点」

として多職種連携活動を行う。



在宅医療に必要な連携を担う拠点

ファーストメンバーとして以下 **14** 医療機関が参加している。
(右地図赤色箇所地域医療機関)

4 病院 10 診療所

医療法人鴨葵会市田医院

医療法人玄紀会西医院

医療法人社団都会渡辺西賀茂診療所

医療法人社団洛和会

洛和会音羽病院

洛和会丸太町病院

洛和会音羽リハビリテーション病院

医療法人双心会長岡京病院

医療法人和み会なかつかさ内科・在宅クリニック

医療法人平安会安田花園クリニック

医療法人双樹会よしき往診クリニック

田中医院

天王山草野クリニック

東寺南クリニック國光

医療法人和宏会らくわ往診クリニック四条

(五十音順)

理事長 市田 哲郎

院長 西 俊希

理事長 渡辺 康介

理事長 矢野 裕典

理事長 水黒 知行

院長 中務 博信

院長 安田 冬彦

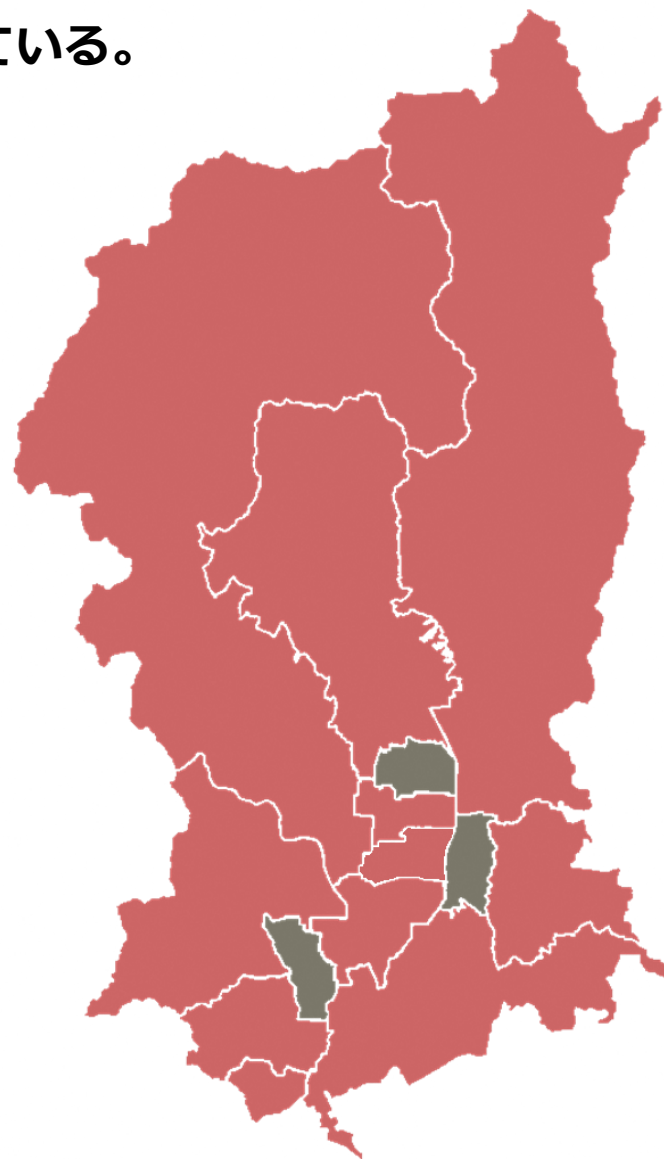
院長 守上 佳樹

院長 田中 善啓

院長 草野 超夫

院長 國光 克知

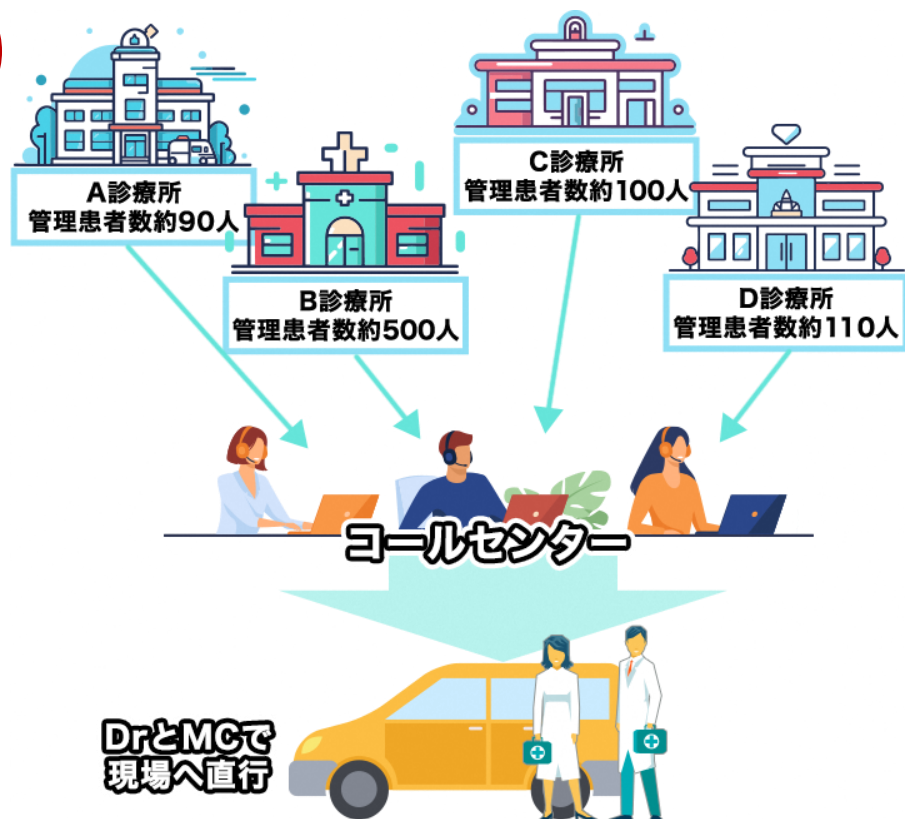
院長 樋口 敏宏



Just2Ys League往診連携システムの概要

各医療機関で当直を配置している場合、以下例の場合は4人の医師を必要とするが、**Just2Ys League**に参加している法人間で連携して往診を行うことで、必要なリソースを最小限に抑えて夜間帯・休日の負担を軽減させることが可能になる。

例



Just2Ys Leagueが大事にすること

- 各クリニックの**主治医の意思**が反映された往診
- いつもと**同じ処方**
- カルテをCLに共有し**日常の医療**に戻す

- ✓ オンコール代行
- ✓ 各診療所とのカンファレンス
- ✓ 事前ヒアリングで各クリニックの医療の質を継続
- ✓ 各クリニックの診療記録の共有
- ✓ 患者様への説明

患者

サブとしての
連絡先

かかりつけ医療機関

依頼

コールセンター

指示

**診療情報
提供書**
TEL,FAX,
京あんしんネット等

**在宅医療重点
拠点医療機関**
レギュレーションを設定し
エリア毎に最大4拠点を想定

Dr+MC

出動

患者宅

搬送になるケース
…在宅療養あんしん病院登録システムの活用

**多職種連携
メンバー**

京あんしんネット

翌日以降の
かかりつけ医療機関
として対応を継続

多職種メンバーへの情報共有を
想定し、京あんしんネットへの
情報アップを実施
※図中の「京」マークのタイミングを想定

2024年12月28日～2025年1月5日では連携往診システムは活用はなし。

年末年始で実用には至らなかったが、事前に参加を希望した医療機関が **4** 法人あった。

合計 **855** 時間（参加を希望する医療機関の医師労働合計時間）のニーズであり、

参加表明書の締結が間に合わなかった医療機関もあり、各医療機関で体制を整え**Just2Ys League**

として連携して動くことは行うことはなかったが、ゴールデンウィークの体制整備に向けては、この数字をコミットできるようにする必要がある。

希望していた4法人の往診件数は合計 **62** 件あったが、3件は救急搬送、3件はお看取りであった。

ゴールデンウィークではこの実績をカバーできるように医師・MC・トランスポート体制を構築する。